

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業堰整備を中心とした農業環境改善による農家の収入安定 ・ 循環型農業技術普及による農家の収入向上
(2) 事業内容	<p><u>1. 農業堰整備</u></p> <p>①キントゥ堰の周囲全長 4,500 フィート(1371.6m)の堰の高さを 2 フィート～5 フィート(0.61～1.52m)高くする。</p> <p>【進捗】</p> <p>堰の堤の整備を実施中である。 予定より進捗がやや遅れている。遅れている原因は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業地域があるシャン州において、本年雨季の降雨量が非常に多く、現場へ行く道が牛車しか通れないような状況が続き、重機の搬入が遅れた。 ・ 日本人専門家による詳しい調査により、変更及び改善が必要な箇所が数箇所出てきた。 <p><u>2. 維持管理体制づくり</u></p> <p>キントゥ堰から農業用水を利用する農民による堰管理基金を作り、堰管理委員会が堰を維持していく仕組みを作る。村の共同農園からの収穫物販売による基金を他の村落開発事業に利用できるようにする。</p> <p>【進捗】</p> <p>計画通り実施中である。 堰管理委員会との話し合いを 5 回実施し、今後の堰維持管理方法、基金管理の方向性を話し合った。</p> <p><u>3. 循環型農業の普及</u></p> <p>農業堰整備後、農民に対して、土着菌堆肥、ボカシ肥や木酢液を使用し、自然の力を利用した持続可能な農業である「循環型農業」の研修を実施し、普及する。</p> <p>【進捗】</p> <p>計画通り実施中である。 12月12日に第1回循環型農業研修を実施した。参加者は25名、土着菌堆肥、ボカシ肥、木酢液の作り方を指導した。 12月26日、27日にも2日間循環型農業研修を実施した。参加者は39名、土着菌堆肥、ボカシ肥、籾酢液、発酵液の作り方の指導、実習を行なった。</p> <p><u>4. モニタリング</u></p> <p>当会スタッフによる週1回の建設作業進捗状況チェック、専門家による建設の進捗チェックや指導、本部担当者による施工完了時の確認を行う。専門家に関しては、日本人エンジニアによる全3回のチェック・指導、ミャンマー人エンジニアによる重要な工期5ヶ月間の現場監督を行い、二人の体制で万全を期す。また、NATALA(国境省、以下 NATALA とする)との定期的な打ち合わせを行い、維持管理体制</p>

	<p>についてアドバイスをを行う。</p> <p>【進捗】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当会スタッフによる週1回の作業進捗チェックは予定通り実施している。 ・ 12月6日～8日の日程で、日本人エンジニアによりチェック・指導が行なわれた。 ・ 11月よりミャンマー人エンジニアの現場監督が現場入りし、住み込みで監督を行なっている。 ・ NATALAとの打ち合わせをこれまでに4回実施し、進捗報告を行なった。その他に現場に同行してもらい、現場の進捗状況チェックや村との調整業務も行なった。
<p>(3) 達成された効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 堰の貯水能力が上がり、周辺農民が、現在農業ができていない乾季（約半年）も含め1年を通じて農業のための十分な水が得られることになり、収入が安定する。 ② より多くの農民が農業用水を利用し農業ができるようになる。 ③ 堰の修繕に使用していた基金を他の村落開発事業のために使用することができ、村の生活環境を改善することができる。 ④ 循環型農業技術を習得し、付加価値のある農作物を栽培できるようになる。 ⑤ 循環型農業モデル地域となり、周辺地域に循環型農業を広めることができる。 ⑥ 収入が向上することで、子どもの就学や栄養の問題、若者の出稼ぎ問題が解決され、BHN や MDGs の項目を改善できる見込みがある。 <p>【達成度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①～③、⑥に関しては、農業堰は現在建設中であるので、現時点では達成度を測ることはできない。 ・ ④に関しては、12.8% 指標では500人に対する研修であるが、現時点では12月の研修参加者延べ64名に研修を実施。当初予定通り工事開始から5ヶ月目～10ヶ月目までで研修を実施する予定であったため、予定通りに進んでいる。今後も引き続き研修を実施することで目標は達成される。 ・ ⑤に関しては、地域の農民への研修がいきわたり、実施された後に見込めるプラスのインパクトであるため、現段階では評価はできない。
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>堰整備事業が、降雨量が多かったことと、日本人専門家のアドバイスによる整備内容の変更などで、計画よりも遅れているが、今後作業人数・グループを増やすことで対応する。また、当初の予定では、堰の整備終了後、放水口の整備を行なうことにしていたが、堰整備と放水口整備を同時進行することで、遅れを取り戻し、予定では、4月の初旬に計画に追いつくこととなっている。</p> <p>堰整備事業以外は、予定通り進んでいるので、引き続き計画通り進めることとする。</p>